

赤十字は、 動いてる！



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



日本赤十字社の活動は、
皆さまの寄付によって支えられています。

赤十字 寄付

- 日本赤十字社
- 日本赤十字社 @JRCS_PR
- japaneseredcross_official
- JapaneseRedCrossPR



一緒に、救える。TEAM
SAVE365

日本赤十字社に ご支援いただき、 まことにありがとうございます。

昨年日本国内では、元日に発生した能登半島地震を始め、大雨や台風による、多くの自然災害に相次いで見舞われました。海外では、ウクライナやパレスチナなど各地での武力紛争や、気候変動の影響と見られる自然災害などによる、人道危機が絶えません。

赤十字は、これらの危機に対し、活動を続けてまいりました。

赤十字の活動は、苦しんでいる人を救いたいというお気持ちで参加くださる皆さまからのご寄付やボランティア活動などによって支えられています。

私たちは、赤十字の理念に共鳴して、活動に参加くださる方を一人でも多く増やしていきたいと思っています。

日本赤十字社は「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命を帯びて時代と共に進化し、2027年には創立150周年を迎えます。

これからも、その使命を実現し続けるために、皆さまとの絆をさらに強め、活動を続けてまいります。

日本赤十字社 社長 清 家 篤

赤十字をはじめて知る方へ



Q. 災害が起こった時、赤十字って何をしているの？

A. 赤十字は、国内外の**災害(地震や台風など)現場に駆けつけ、いのちを救うための医療や看護の支援**を行っています。

また、普段は災害に備えた訓練や啓発活動に取り組んでいます。

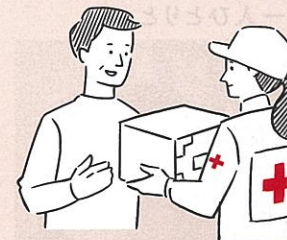
Q. 誰が活動しているの？

A. 普段は赤十字の病院に勤めている**医師・看護師・助産師・薬剤師**のほかに**ボランティア**などが活動しています。



Q. 赤十字は税金で活動しているのですか？

A. いいえ、赤十字の活動のほとんどが**皆さまからのご寄付により支えられており**、救護班の育成や救援物資をお配りするための費用に役立てられています。





赤十字は、動いてる！

赤十字は、最前線に立つ人、
それを背後で支える人、
そして何よりも、
活動を寄付で支援してくださる人、
関わるすべてのみなさん一人ひとりと
動き続けています。
人間のいのちと健康、
尊厳が守られる世界を信じて。
これまでも。
これからも、ずっと。

一緒なら、救える。

赤十字の活動

国内災害救護活動 ▶ P5

救護訓練や救援物資の整備など、
常に災害対応できる体制を整え、
災害時には現地へ駆けつけ救護活
動を実施します。



国際活動 ▶ P7

海外で発生した災害や紛争、感染症
等の病気で苦しむ人びとを救うため、
救援や復興支援、予防活動に取り
組めます。

ボランティアなどの 育成 ▶ P8

全国の赤十字ボランティアや青少年
赤十字メンバーの育成を行います。



救急法などの 普及 ▶ P8

身近な人を救うための知識と技術
の普及を行います。

※医療事業、血液事業、社会福祉事業は、それぞれ診療報酬や血液製剤の供給収益、介護保険収入などを主な財源として活動しております。

あなたのご寄付で実現した 国内災害救護活動



令和6年能登半島地震・令和6年9月能登半島大雨災害

令和6年1月に石川県能登地方を震源とする最大震度7の地震では、発災直後から関係機関と連携し、医療救護班などによる救護所の開設や避難所の巡回診療を実施したほか、被災された住民及び支援者(市町職員)の方々へのこころのケア活動も展開するなど幅広い活動を実施しました。

また同年9月には、輪島市、珠洲市及び能登町で大雨特別警報が発令され、線状降水帯発生に伴う大雨により多くの河川が氾濫し、人的・住家被害が発生しました。発災直後から医療救護班を派遣し、孤立状態になった地区の避難住民の健康観察や、避難所及び仮設住宅の巡回診療を行うほか、こころのケア班を派遣するなど、被災地の状況に応じた支援を実施しました。

被害を受けた被災地では、地震発生直後から多くの赤十字ボランティアが活動しており、1年以上が経過した現在も被災地の復興に向け、被災者に寄り添った活動を継続しています。

■ 令和6年能登半島地震	
[職員の派遣]	
救護班など(DMAT含む)	290班
日赤災害医療コーディネートチーム	120チーム
こころのケア班	44班
支部支援要員	78名
看護師派遣	128名
介護職員など派遣	5名
[救援物資の配布]	
毛布	16,005枚
緊急セット	2,224セット
安眠セット	5,230セット
携帯型簡易トイレ	3,400個
[赤十字ボランティアの活動]	
ボランティア活動	1,600名
■ 令和6年9月能登半島大雨災害	
[職員の派遣]	
救護班など(DMAT含む)	5班
日赤災害医療コーディネートチーム	3チーム
こころのケア班	
関係機関への職員派遣	3名
[赤十字ボランティアの活動]	
ボランティア活動	19名



令和6年7月25日からの大雨災害

北日本に停滞した梅雨前線の影響で、東北地方の日本海側を中心に記録的な大雨となり、秋田県および山形県では、河川の氾濫による被害が発生しました。日赤災害医療コーディネートチームを派遣し、避難所の状況確認を行ったほか、こころのケア班を派遣、救援物資を配布するなどの被災者に寄り添った支援活動を行いました。

主な実績

[職員の派遣]	
連絡調整員	12名
日赤災害医療コーディネートチーム	4名
こころのケア班	12班
[救援物資の配布]	
毛布	60枚
タオルケット	50枚
緊急セット	24セット
[赤十字ボランティアの活動]	
ボランティア活動	728名



赤十字防災セミナー

将来発生が予測されている大規模災害から人びとのいのちを守るためには、地域コミュニティにおける「自助」と「共助」の力を高める防災教育が極めて重要です。各支部では、地域の住民の方々が自ら災害からのちを守り、被災に伴う心身の苦痛を軽減することを目指し、「赤十字防災セミナー」を実施しています。

あなたのご寄付で実現した 国際活動



中東人道危機

中東地域は、パレスチナやレバノン、イエメン、シリア、イラクなど長期的に紛争の影響を受ける国々を抱え、インフラの崩壊や貧困、避難民に関する課題により、国境を越えた複合的な人道危機にさらされています。

日本赤十字社は、現地の赤十字社・赤新月社などを通じて食料や水、テントなどの提供や医療施設の修繕、人材育成などに取り組んでいます。また、紛争下での国際人道法遵守の働きかけにも力をいれています。



バングラデシュ南部避難民支援

2017年8月、ミャンマー・ラカイン州における暴力から逃れるため、多くの人が隣国バングラデシュ南部に避難しました。衛生状態の悪い生活環境や自然災害のリスクが高い中、現在も約100万人が避難民キャンプで暮らしています。

日本赤十字社は、バングラデシュ赤新月社と協力して、避難民やキャンプ周辺住民のレジリエンス強化など、中長期的な活動を行っています。



ルワンダでの給水設備設置

ルワンダは1990年代の内戦終結以降、経済成長が進む一方で、農村部の貧困が深刻で、インフラ整備の遅れのため、安全な水やトイレが不足しています。

日本赤十字社が2019年よりルワンダ赤十字社と協力して実施する「レジリエンス強化事業」では、村に給水設備を設置し、誰もが安全な水を得られるようにするなど、住民の生活改善を支援しています。

あなたのご寄付で実現した ボランティアなどの育成/救急法などの普及



災害時を見据えた 非常食備蓄

赤十字ボランティアが地域イベントで災害時に必要な1日分の非常食や水を実際に展示し、来場者に非常食を配付するなど、日常における備蓄の大切さを伝えました。赤十字ボランティアは、災害時の被災者支援や防災減災の普及啓発など、多岐にわたる活動を行っています。



高校生が 1人暮らしの高齢者と 手紙で交流

青少年赤十字では、赤十字の理念を通じて人を思いやる豊かな心を持ち、自主的に行動できる子どもたちを育てています。

独居の高齢者や、高齢者施設を訪問し、手紙を通じて交流をしました。地域貢献活動のほか、子どもたちの自由な発想のもと、様々な活動を行っています。



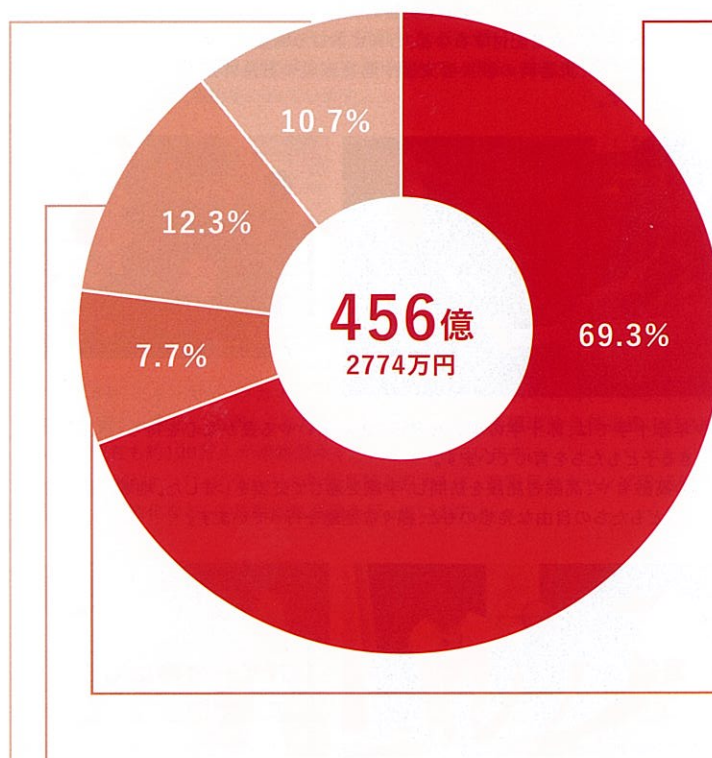
万が一の時に備える 赤十字講習

令和6年で一般市民によるAEDの使用が認可されて20年が経ち、これまで、約750万人の方にAEDの使用方を普及してきました。日赤では、一次救命処置や日常生活での事故防止などの知識・技術を広める活動として、各種講習を実施しています。

ご寄付の活かし方

令和5年度 歳出(一般会計)の報告

国内外で苦しんでいる
人びとを救うため、
皆さまから託されたご寄付を
活用しています。



苦しんでいる人びとを救うための費用

316億985万7千円

国内外における救護活動

国内災害対応や国際活動、
復興支援などに使われた費用です。



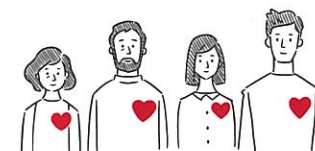
防災活動

防災イベント・セミナーなどに
使われた費用です。



ボランティアの育成

ボランティアの育成や活動に
使われた費用です。



広報活動のための費用 | 35億1681万7千円

広報・普及活動

会員への参加呼びかけや広報活動、寄付の募集のために
使われた費用です。

事務のための費用 | 56億669万2千円

事務管理

支部、病院、社会福祉施設の事務局・本部機能として、施設負担を
除いた事務経費に使われた費用です。

その他の費用 | 48億9437万2千円

次年度の活動

次年度当初の活動のために使われる資金です。

あなたのご寄付でできること



皆さまからのご支援は、赤十字のさまざまな活動や救援物資の購入などにカタチを変えて、困っている人たちに寄り添います。

2,000円 ▶ 毛布 / 1人分

避難所での生活に不可欠な「毛布」を1人分備えることができます。



3,000円 ▶ 安眠セット / 1人分

避難先での生活を少しでも快適に過ごしていただけるよう、キャンピングマット、枕、アイマスクなどが一式収納された「安眠セット」を1人分備えることができます。



5,000円 ▶ 緊急セット / 1セット 4人分

避難先での生活にあると便利なマスク、ウエットティッシュ、ラジオ、懐中電灯、歯ブラシなどが一式収納された「緊急セット」を1セット(4人分)備えることができます。



10,000円 ▶ 心肺蘇生トレーニングキット / 5人分

簡易的に心肺蘇生を体験することができるトレーニングキットを整備することで、大人数での講習を実施することができます。



30,000円 ▶ 心肺蘇生訓練人形 / 1体

日本では、6分に1人が心臓突然死で亡くなっています。突然の心停止に陥った人を救う「心肺蘇生」を学ぶための器具「心肺蘇生訓練人形」を準備することができます。



被災された方の声

日赤さんから毛布を受け取りました。北陸の冬は、雪が降ったらかなり寒いので、毛布があると、寒さが全然違うのでありがたいです。毛布を重ねて敷いて底冷えや腰の痛みを防いでいます。



一緒に、救える

日本赤十字社へのご寄付の方法

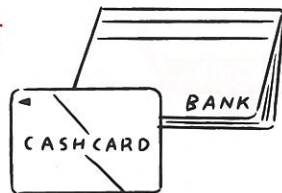
クレジットカードや Amazon Payで寄付

Webサイトからの登録により、クレジットカードやAmazon Payでご寄付いただけます。
ご寄付は、毎年・毎月・今回のみからお選びいただけます。



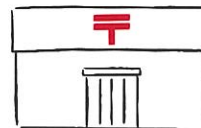
郵便局・銀行の口座振替で寄付

ご希望の口座から自動引き落としでご寄付いただけます。お申込みには「会員加入申込書」をお送りください。ご寄付は毎年・毎月からお選びいただけます。



郵便局・銀行の口座への寄付

日本赤十字社では郵便局（ゆうちょ銀行）や銀行などで寄付専用口座を開設しております。



お近くの日本赤十字社窓口で寄付

お住まいの都道府県にある全国47箇所の日本赤十字社支部窓口でもご寄付を受け付けております。また、自治会、町内会などを通じたご寄付についても、地域の防災・減災活動やボランティア育成などに活用しています。



スマホアプリ

J-Coin Pay「ぽちっと募金」を使って寄付

まずは銀行や全国150以上の金融機関で口座をお持ちの方は、スマホ決済アプリ「J-Coin Pay」からご寄付いただけます。



カードのポイントで寄付

クレジットカードでの買い物や、各種サービスでカードに付与されるさまざまなポイントを利用して、ご寄付いただけます。



コンビニで寄付

コンビニエンスストアにある情報端末（ローソンマルチメディア端末「Loppi」、ファミリーマート「マルチコピー機募金受付サービス」）や、セブンイレブンなどにある全国の「セブン銀行ATM」で、ご寄付いただけます。

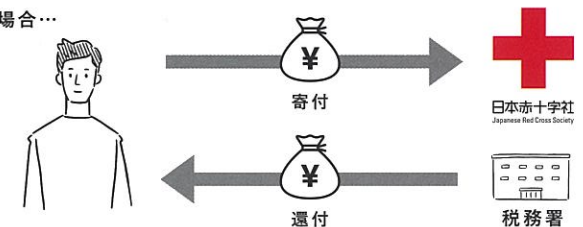


寄付方法の詳細は、日本赤十字社Webサイト「寄付する」のページをご覧ください。

税制上の優遇措置

日本赤十字社へのご寄付は確定申告することで個人の所得税や、企業の法人税の優遇措置を受けられます。

個人の場合…



所得控除の計算式

A: 年間所得総額 - B: (寄付金額※ - 2,000円) = C: 所得税課税対象額

※ただし、寄付金額は年間所得総額の40%が上限となります。

表彰制度のご案内

活動資金や献血などにご協力いただいた場合は、表彰制度を設けています。詳しくは、日本赤十字社のホームページ又は、各都道府県支部までお問い合わせください。

※寄付などの協力に際して取得する個人情報は、日本赤十字社の広報活動や事業資金などの募集のためにのみ使用します。詳しくは、日本赤十字社Webサイトをご確認ください。